

令和7年度第2回湖北圏域地域医療構想調整会議 議事概要

日 時：令和8年2月19日（木） 18:30～19:55

場 所：滋賀県湖北合同庁舎 第1会議室

出席委員：◎森上委員、西村委員、西川委員、久留島委員、伊藤委員、高折委員
納谷委員、楠井委員、松岡委員、有村委員、桐山委員、西山委員、宇田委員、
松宮委員、荻田委員、村崎委員、嶋村委員 （※ ◎議長）

欠席委員：宮野委員【代理出席：高橋課長（米原市くらし支援部健康づくり課）】

傍 聴 者：7名

事 務 局：滋賀県長浜保健所

議事の経過概要

開会 18:00

あいさつ 滋賀県長浜保健所長 嶋村

議題

（1）医療機関の対応方針の確認について

事務局より資料1について説明。その後、質疑応答、意見交換が行われた。概要は以下のとおり。非稼働病棟への対応および医療機関の対応方針について、本会議としての考え方を案のとおりとし、医療機関の機能分化と連携の強化に向け、引き続き議論していく。

議長 湖北区域では全国に先駆けて老健や特養などで看取りをしていただいているものの、慢性期機能の病棟が不足しており、湖北区域の患者が他の地域の病院へ転院、流出していることが1つ目の問題。2つ目は看護師不足。病院看護師は人口10万人に対して803.1人と一見多く見えるが、看護師の配置基準は3対1や7対1、20対1と機能によって異なり、病院が必要とする看護師の数には足りていないところがある。また、湖北区域の診療所医師について、人口10万人に対して101人いるのだが、開業される診療科に偏りがあり、必ずしも十分とは言えない。さらに、今後は何名かの開業医が辞められると聞いており、厳しい状況になることが予想される。3つ目は在宅療養。共働きや高齢世帯においては在宅療養が厳しく、また、施設への入所などを希望されても、経済的な事情などから在宅療養せざるを得ない方がおられる。

確認だが、非稼働病棟への対応に関して、病棟の稼働率を上げたとしてもなお追加的な病棟の再稼働の必要性があるか否かとあるが、入院の必要のない患者を入院させ、意図的に稼働率を上げるというような印象を受けた。そうではなく、適正な運用の中で稼働率が上がり、患者がいっぱいになり、再稼働の必要性が出るということで良いか。

- 事務局 そのとおり。
- 議長 参考資料4にあるとおり、長浜保健所長から3病院に対して医療機関の対応方針の確認をされているが、なにかあるか。
- 委員 国の通知に基づき1月19日付けで一般病床もしくは療養病床をお持ちの病院に依頼させていただいた。先ほど、看護師不足の話があったが、まずは市立長浜病院の看護師の充足状況、募集状況はいかがか。
- 委員 看護師の募集状況は深刻。経営分析は行っているが、少ない看護師でなんとか病棟を維持している状況。随時募集をかけ、採用しているが、退職者を埋めるには至っていない。
- 委員 現在144床が休棟となっているが、経営戦略として病床数適正化事業の活用についての検討はいかがか。
- 委員 全国の公立病院が赤字で苦しむ状況の中、当院では経営コンサルタントに伴走支援をいただいている。その中で、344床の稼働を目指していくと合意している。また、病床数には関係ないが、情報共有したいことがある。当院には地域包括ケア病棟があるのだが、長らく使っておらず、そのような運用ができておらず、近畿厚生局から返上するよう指示を受けた。
- 長浜病院 地域包括ケア病棟は急性期の入院治療後の患者の在宅復帰に向けた支援を行うため、平成27年1月から運用を開始した。以降、毎年延べ1万人弱の患者が利用されていたが、新型コロナウイルス感染症への対応が最優先事項となった令和3年1月から休止しており、現在も再開の目処が立っていない状況。休止期間が長く、近畿厚生局から辞退の要請を受け、辞退することとした。
- 委員 長浜市立湖北病院では夜勤の看護師が不足し、医師の確保にも難渋されているかと思う。施設の老朽化という問題もあるが、現在の状況や今後に向けての方向感はいかがか。
- 委員 夜勤の看護師不足には非常に苦勞しており、募集をかけても十分な応募はない。看護師の配置について、以前は7対1としていたが、現在は10対1としている。病院機能に関して、来年度の6月以降は一般病棟を地域包括医療病棟とし、地域包括ケア病床は廃止する形で準備を進めており、入院単価が上がり経営にも寄与する。建替えに関して、実施設計まで行ったものの、建築費の高騰、長浜市の財政状況、病院の経営状況を考えたときに、現在の実施設計のまま進めることで地域医療を守れなくなる可能性もあり、再検討しているところ。
- 委員 長浜赤十字病院の非稼働病棟への対応に関して、医師、看護師の確保が難しいとあるが、今後の見通しはいかがか。
- 委員 医師の確保は急に難しくなったわけではなく、昔から困難な中でなんとかやっている状況。大学と交渉はしているが、現状より増やしてほしいという要望は通りにくい。看護師について、以前は少し余裕をもって確保できていたが、ここ1年程で少し厳しくなっており、これから先は注意が必要。県立看護専門学校の学生や、そこを目指していただける可能性のある中高生に対し、地域を挙げた取

組がさらに必要ではないかと感じている。前回は意見させていただいたが、県立看護専門学校の卒業生は、湖北区域でなくとも、県内で就職される方の割合が非常に高く、県全体に対する看護師の養成という役割を果たしており、地域を挙げて支援していく必要がある。休棟に関して、今後、病院再編が進むと、その過渡期には多くの患者を受け入れなければならない可能性がある。他の目的に流用したい思いはあるが、現時点においては、地域全体の先行きが定まっておらず、ある程度の自由度を確保しておく必要があると考え、未定とし、休棟のままとしている。看護師を増やしていくことが難しい状況であり、同じ人数で地域のニーズを満たせる体制が必要な中、我々の予想を上回るスピードで出生数は減少しており、地域や全国の状況を慎重に観察しつつ、周産期医療の規模の適正化を図らなければならない時期が来ると考えている。その際には、基準より多くの看護師を配置し、維持している医療の支援に回っていただけると良い。地域全体として、病床数あたりでも人口あたりでも看護師は少なくなく、病棟機能を適正に配分することも必要ではないかという国の指導は理解できるが、さまざまな利害関係が絡むことであり、慎重に話し合いを進めていかなければならないと考えている。

議長
委員

看護協会から看護師の育成に関して情報共有いただけることはあるか。
看護協会としては、看護学生、新人、中堅とそれぞれの段階に必要な教育を切れ目なく行うことが必要と考えており、湖北区域内の病院、施設の管理者とも意見交換していたところ。情報共有だが、県内に看護専門学校は8校あり、令和7年度の募集定員は合計で400人であったが、受験者数は350人、入学者は275人という状況であった。日本看護協会では4年制の大学における教育を推進する話が出ており、いずれは専門学校がなくなってしまうのではないかと感じている。また、県立看護専門学校の学生は県南部の病院へ、大津周辺の学生は県外へ流出する傾向があるが、その要因の1つは就職試験の日程。湖北区域では4月に行っているが、県南部や県外では2月、3月に行っており、早めに決まる方が良いと考える学生が一定数いるのではないかと考える。

議長

350人受験されて、275人しか入学されないというのは、他にも合格され、そちらを選択されているのか。

委員

そのとおり。

議長

薬剤師の確保に難渋している、薬剤師が不足していると初めて認識した。状況を教えていただけるか。

委員

病院では薬剤師を採用しづらいというのは全国的な傾向。病院と調剤薬局の初任給を比較すると、調剤薬局の方がかなり高い。薬学部が6年制となり、病棟での患者対応等に力を入れた教育はなされているが、実際には調剤薬局に就職される方が多い。そのため、当院だけでなく県内どこも苦勞しており、他府県でも同じ傾向にある。

議長

医療は施設や設備ではなく、人が全てといっても過言ではない世界。なんとか知恵を出し合って考えていきたい。まとめに記載されているとおり、民間医療機関

の立地が困難な過疎地における一般医療の提供や、不採算・特殊部門に関わる医療の提供こそ、公立病院、公的病院がやっていかないといけない使命であり、黒字化は難しいかもしれない。将来に向けて良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制の確保を目指した本会議としての考え方は案のとおりとし、引き続き議論していくことでよろしいか。

(異議なし)

本会議としての考え方は案のとおりとさせていただきます。

(2) 児童・思春期精神科専門病床の設置について

事務局より資料2について説明。また、長浜赤十字病院より設置に至る経緯や現在の状況等について補足説明。その後、質疑応答、意見交換が行われた。概要は以下のとおり。

長浜赤十字 当院は昨年度に指定を受けた災害拠点精神科病院の役割に加え、児童思春期年代の精神疾患に専門的に対応する病床を来年度の5月から開設する予定。児童思春期年代の精神疾患は年々増加傾向にある一方、入院が必要な際に対応する専門の病床は県内や近隣の京都府等になかった。当院でも児童思春期年代の患者は増加しており、昨年度の実績として20%を占めている。湖北圏域だけでなく湖東圏域や大津圏域からの受入れ要請が増加しており、医療的、社会的な受け皿としての必要性、なにより精神疾患に苦しむ患者とそこご家族を少しでも助けるために児童・思春期精神科専門病床の設置を決定した。具体的には当院の精神科病棟2病棟のうち、9西病棟30床を24床に変更し、病棟内を完全に区切り、12床を児童思春期年代の患者専用の病棟として運用を開始する予定。専従の公認心理士や精神保健福祉士をはじめ、多職種による専門的な治療プログラムを提供し、入院中に学習の支援を行える体制を新たに整備している。残りの12床はこれまでどおり成人の患者を受け入れる。また、もう1つの精神科病棟である9東病棟もこれまでどおり、措置入院や医療保護入院等、急性期の患者の受入れを継続していく。

委員 以前と比べ、発達障害と診断される子どもは増えている。世間では教室でじっとしてられない発達障害などの子どもによる学級崩壊が報道されている。不登校や問題行動を契機に精神科を受診されるが、児童思春期年代を中心に専門的にやっている精神科は少ない。当院には幸い専門の医師がおり、後進を育てるプログラムがあり、人材は徐々に揃ってくると思っている。大学とも協力し、人材育成を図りつつ、最初は12床と小さな規模でのスタートだが、状況に応じて拡大することも考えたい。発達障害は増えているが、入院が必要になるのは摂食障害が多い。重症となると死に至る可能性があり、治るまでに相当な時間がかかるが、その入院期間に学習の機会を確保する必要がある。また、発達障害で入院が必要になるのは暴力行為が見られる場合が多いが、その場合には学習する習慣が身に

ついていないことが多いため、指導できる体制を構築する必要がある。準備期間に県や市の教育委員会にお世話になったが、今後も意見交換しながら進めていき、精神疾患に関わる問題が学校で発生した場合に、的確に相談に乗れる関係を構築していきたい。京滋で唯一の専門病床であり、潜在的なニーズがある可能性があり、今後拡大することとなれば、9西病棟全体を児童・思春期精神科専門病床としなければならなくなり、成人の患者で9東病棟の入院要件を満たさない方はセフィロト病院にお願いすることとなる。精神科の患者は医師やスタッフとの人間関係も大事であり、安心してもらうためにも両病院が日ごろから交流し、連携を強化する取組をじっくりと進めていきたい。

委員 現状、当院には児童思春期年代を専門とする医師はいないが、長浜赤十字病院で児童・思春期精神科専門病床が運用されれば、例えばリハビリテーションなど、社会復帰の支援をお手伝いできれば良いと考えている。

委員 この分野では親の治療を必要とする場合があり、かつ、意見や気持ちや利害が親子で対立し、同じ医療機関での治療が不適切な場合があるため、連携して対応できるようにお願いしたい。

委員 子どもの悩みは多種多様であり、精神疾患から自殺に至る場合があり、先進国の中で大きな課題とされている。湖北区域はもちろん、北陸から近畿に至るまで潜在的なニーズがあると考えられ、児童・思春期精神科専門病床の設置に向けて期待している。

(3) 新たな地域医療構想の検討状況について

県医療政策課より資料3について説明。意見などは特になし。

閉会 19:55